

「大腸癌発生を予防できる薬剤を解明する研究」

のお知らせ

日本赤十字社医療センター 消化器内科・健康管理科では東京大学医学部附属病院と共同で下記の研究を行う事を計画しています。この研究は条件を満たす患者さん全員を対象といたします。もし、研究への参加を希望されない場合には、研究の対象とは致しませんので、下のお問い合わせ先にお申し出下さい。お申し出になられても、診療を受ける上で不利益を被る事はございませんのでご安心下さい。

■研究の対象となる方

2007年4月から2014年12月までに当院で大腸内視鏡検査を受けた方

■ご協力頂く内容

本研究では診療録に記載された診療情報を研究に使用させていただきます。研究のために新たにご負担頂く事はありません。診療情報の使用に際しては、政府が定めた倫理指針に則り、個人情報には厳重に保護した状態で行います。

・研究の概要

大腸癌は我が国で2番目に多い癌で、女性の癌死の原因の1位を占めます。これまでの研究において、アスピリンという、循環器疾患の治療として用いられている薬剤が大腸癌の発生を抑制する効果があることがわかっています。またその他の薬剤(糖尿病、高血圧や高脂血症の治療に使われる薬剤)にも大腸癌の発生を抑制する効果が期待されています。しかし、これまでの研究では、網羅的にどの薬剤がどの程度大腸癌の発生を抑制することができるのかよくわかっていませんでした。そこで、今回、大腸癌を予防することができる可能性がある薬剤を明らかにするために臨床研究を行わせて頂くことになりました。

この研究はこれまでに日常診療上必要であった検査や治療のために行った過去の検査結果を調べる研究ですので、患者さんに負担をお願いすることはありません。また、個人情報については、厳重に管理され、プライバシーが漏れることがないように、データは当院のファイル管理システム内および東京大学医学部附属病院にて管理し、個人情報保護について細心の注意を払います。

・研究の方法

この研究は、後ろ向き観察研究というものです。上記の対象となった方の診療録から薬剤内服歴、内視鏡検査所見、臨床転帰(手術、死亡)を調査し、大腸癌発生と薬剤の関連を統計学的に調べます。

・問い合わせ先

日本赤十字社医療センター 健康管理科 新倉量太
消化器内科 鈴木裕史

電話: (03)3400-1311